

経済産業省事業

「平成27年度 医療技術・サービス拠点化促進事業」

医療国際化事業 最終報告会

～配布資料～

日時

2016年3月17日(木)10:30～16:40

会場

ベルサール八重洲 3階

本日のプログラム(午前)

Time	プレゼンテーション		ネットワーキング・質問								
	Room2+3	Room4+5	デスクA	デスクB	デスクC	デスクD	デスクE	デスクF	MEJデスク		
10:30	10:30-10:40 開会挨拶 (METI)										
10:40	10:40-10:55 O1:公益財団法人結核予防会 【カンボジア】 「日本式健診・検査センター 設立プロジェクト」	10:40-10:55 O2:富士フイルム(株) 【フィリピン】 「フィリピンにおける日本の PACS拠点設立プロジェクト」									
10:50											
11:00	10:55-11:10 O3:富士フイルム(株) 【ブラジル】 「ブラジル国における 次世代がん検診センター 設立プロジェクト」	10:55-11:10 O4(株)シード 【ベトナム】 「日本型コンタクトレンズ 診断・普及プロジェクト」	10:55-11:25 O1 結核予防会 【カンボジア】	10:55-11:25 frv5vc	11:10-11:40 O3 富士フイルム 【ブラジル】		11:10-11:40 O4 シード 【ベトナム】		MEJ デ ス ク		
11:10	休憩(10分)	休憩(10分)									
11:20	11:20-11:35 O5:ケアプロ(株) 【インド】 「インド国における日本式簡易検査 サービス及び簡易検査機器の プロモーション拠点化事業」	11:20-11:35 O6:ビー・ジェイ・エル(株) 【トルクメニスタン】 「トルクメニスタン診断センター」									
11:30					11:35-12:05 O5 ケアプロ 【インド】		11:35-12:05 O6 ビー・ジェイ・ エル 【トルクメ ニスタン】				
11:40	11:35-11:50 O7:富士通(株) 【インドネシア】 「インドネシアにおけるICTを利用した 日本式医療連携推進センター 設立プロジェクト」	11:35-11:50 O8:オリンパス(株) 【タイ・ロシア】 「メコン外科トレーニングセンター活用及び ロシア内視鏡外科手術トレーニングセンター設立 検討に係る実証検証事業」									
11:50											
12:00			11:50-12:20 O7 富士通 【インドネシア】	11:50-12:20 O8 オリンパス 【タイ・ロシア】							
	昼休憩(-13:00)										

コンソーシアムは、
プレゼンテーション後30分間、
ホワイエにて待機しています。
質問等ある方は、ぜひお立ち寄りください。

MEJの事業紹介(入会案内等)の
窓口を開設しています。
お気軽にお声掛け下さい。



本日のプログラム(午後)

TIME	プレゼンテーション		ネットワーキング・質問						
	会場①(Room1+2+3)	会場②(Room4+5)	ホワイエ						MEJデスク
			デスクA	デスクB	デスクC	デスクD	デスクE	デスクF	
13:00	13:00-13:05 MEJ挨拶(理事長)								
13:10	13:05-13:20 O9:国際医療福祉大学 【ベトナム】 「ベトナムにおける人間ドックセンター開設 に係る実証調査事業」								
13:20	13:20-13:35 O10:グリーンホスピタルサプライ(株) 【ミャンマー】 「ミャンマー日本式医療施設 整備運営プロジェクト」		13:20-13:50 O9 国際医療福祉 大学 【ベトナム】						
13:30	13:35-13:50 O11:特定非営利活動法人国際医療連携機構 【ミャンマー】 「ミャンマーにおける日本式医療技術 トレーニング拠点設立プロジェクト」	13:45-13:50 METI挨拶		13:35-14:05 O10 グリーン ホスピタル サプライ 【ミャンマー】					
13:40	13:50-14:05 O12:非営利活動法人 消化器健康医療研究機構 【フィリピン】 「マニラにおける 国際先進消化器内視鏡センター設立」	13:50-14:10 N1:野村総合研究所 「国内医療機関における外国人患者の 受入状況調査報告」			13:50-14:20 O11 国際医療 連携機構 【ミャンマー】				
14:00						14:05-14:35 O12 消化器健康 医療研究機構 【フィリピン】			
14:10	休憩(10分)	休憩(5分)							
14:20	14:15-14:45 N2:野村総合研究所 「海外の医療事情・事業環境 に関する調査報告 (基本編・詳細編)」	14:15-14:35 M1:Medical Excellence JAPAN 「日本国際病院(仮称) 検討のための調査報告」							
14:30		14:35-14:55 M2:Medical Excellence JAPAN 「『日本の医療』に関する プロモーション活動報告」							
14:40									
14:50	休憩(10分)								
15:00	14:55-15:05 M3:Medical Excellence JAPAN 「『国際展開医療技術集』に 関する報告」	休憩(10分)						14:55-15:25 M1.2 MEJ	
15:10	15:05-15:25 M4:Medical Excellence JAPAN 「国際展開支援官民ミッションの 実施報告」	15:05-15:25 I1:佐賀国際重粒子線がん治療財団 【台湾・中国】 「『九州国際重粒子線がん治療センター』 台湾・海外からの患者受入プロジェクト」							
15:20									
15:30	休憩(10分)	15:25-15:45 I2:特定医療法人衆済会増子記念病院 【中国】 「肝・腎・糖尿病専門外来・ セカンドオピニオン外来と 長期フォローアップの確立」	15:25-15:55 I1 佐賀国際重粒 子線がん治療 財団 【台湾・中国】					15:25-15:55 M3.4 MEJ	
15:40	15:35-16:05 MU:明治大学 「海外の医療機器メーカーの 海外展開に関する 情報収集結果報告」	15:45-16:05 I3:ウェルネス・コミュニケーションズ㈱ 【台湾・中国】 「訪日客向け血液透析支援 サービスプロジェクト」		15:45-16:15 I2 特定医療法人 衆済会増子記 念病院 【中国】					
15:50					16:05-16:35 I3 ウェルネス・ コミュニケー ションズ 【台湾・中国】				
16:00									
16:10									
16:20									
16:30									
16:40									

- 平成27年度 アウトバウンド事業
- 平成27年度 インバウンド事業
- MEJ調査事業
- 野村総合研究所調査事業
- 明治大学調査事業

・各会場の出入りは自由です。 ・報告終了後、ホワイエで質問を受け付けします。

※プログラムは変更の可能性があります。

1. 事業概要

カンボジア国立保健科学大学(UHS)との共同事業

- 健診センター機能(生活習慣病、人間ドック、来所健診)
- 健診異常者に対する医療ケア(2年次以降予定)
- 検査センター機能(他医療機関からの検査受託、来所・出張健診の検体検査)
- 職域健診(有料サービス)
- 開業医への診断サポート(教育研修会を含む)
- 公的医療機関との医療連携
- 同大学の学生教育支援、開業医の生涯研修支援
- 同大学との共同研究の実施

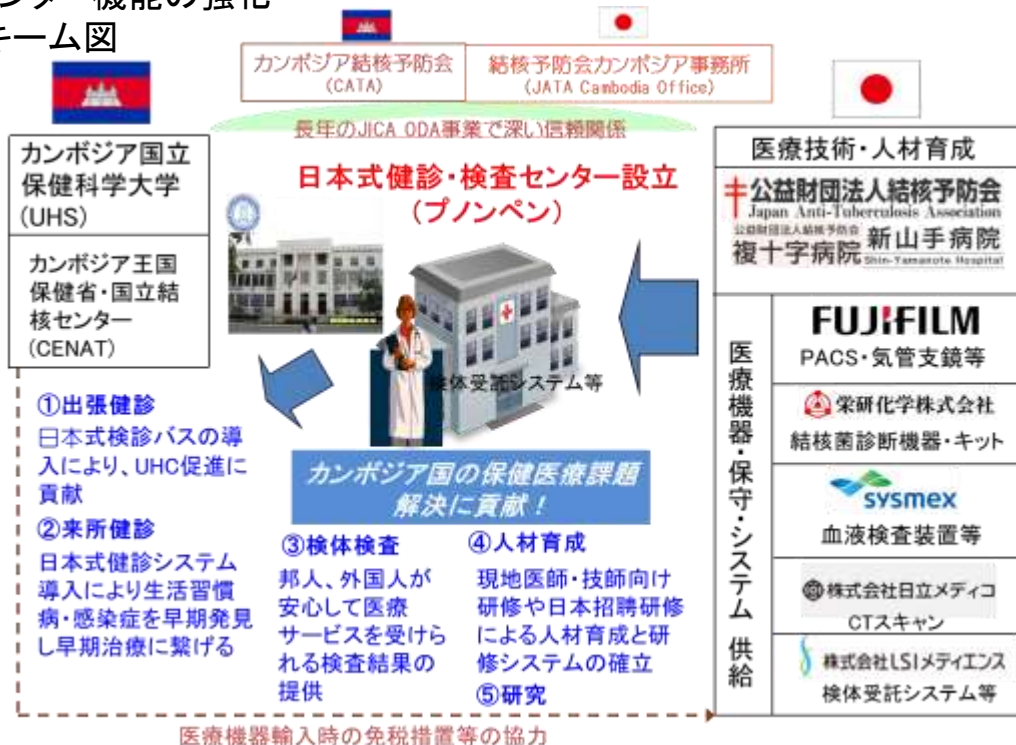
2. これまでの成果

- 同大学理事会にて共同事業実施承認、MoU締結及びAgreementの締結調整
- 同大学学長、薬学部長、医学部副学長の日本招聘視察研修の実施
- 健診・検査センターにて新規雇用するスタッフのリクルート開始
- 近隣医師向け医療セミナーの開催(今後定期実施)
- 健診・検査センターの詳細調査・設計の完了及び改修工事施工開始
- 出張健診予定企業との契約、医療機関連携に向けた交渉の開始
- コンソーシアム機材及びその他機材・什器等の調達(免税措置による)
- 健診判定、結果出力等のコンピュータシステム改修
- 健診・検査センターのHP及びFacebookの立上げ準備

3. 今後の課題

- 健診・検査センター改修工事の終了時期及び開所式の実施調整
- 検査項目の充実と追加機器の導入及びそれに伴う人材育成
- 要治療受診者の治療確保、紹介医療機関との連携構築
- 検査センター機能の強化

4. 事業スキーム図



事業概要

本事業では、富士フィルムと静岡がんセンターがフィリピン国立大学付属病院（PGH）で「PACS+画像診断研修」のパッケージをトライアルする。

- フィリピン最大のティーチングホスピタルであるPGHでPACSの試用を開始し、効果的な運用方法を定着させ、日本式PACSのモデルケースとする。
- 試用しているPACSを最大限利活用できるように、静岡がんセンターによるPACS運用見学、画像診断のノウハウ伝授といった研修を実施する。
- 研修医と若手医師のスキルアップを目指して、同センターと富士フィルムで共同開発した類似症例検索システム（商品名:Case Match）もトライアルする。

事業体制

事業者			実施内容
コンソーシアム	代表団体	富士フィルム株式会社	コンソーシアム全体管理/事務局
	委託先	FUJIFILM Philippines Inc.	現地調整・交渉、SYNAPSE導入
	委託先	静岡がんセンター	SYNAPSE運用・読影の研修実施
	委託先	ファルマバレーセンター （静岡県産業振興財団）	PGH研修医の研修受け入れ

これまでの成果

PACS試用・ユーザートレーニングを実施。ワークフロー改善やCase Matchの教育的効果といった日本式PACSの有効性を検証し、学会でもPRすることができた。

- PACS試用の中心メンバーを静岡がんセンターに招聘し、利用現場を体験して貰い、運用の理解を深めることができた。
- PGHでPACS試用を開始し、従来とのワークフローを比較し、業務効率化や情報管理の面での効果を実証した。Case Matchにおいては研修医へ読影実験を行い、有用性を確認することができた。
- フィリピン最大の放射線学会（PCR）で上記活動を発表し、PACSの効果を広く紹介することが出来た。また、展示ブースでは日立メディコの代理店HIMEXとプロモーションを共同で行うなど、日本製品の連携を強めた普及活動を行った。

静岡がんセンターの運用見学



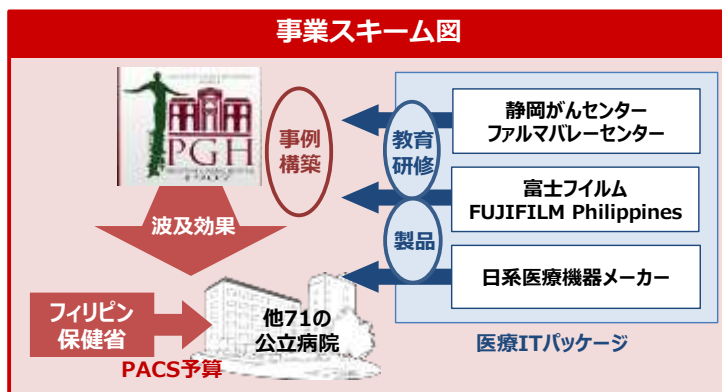
PGHにおけるPACS利用



今後の課題

- PGHの試用事例を周辺病院に広めていくことで、日本式PACSおよびデジタル画像診断装置を普及させていく。
- フィリピン保健省の医療IT化政策（Eヘルス）などを通じ、公立病院におけるPACSの予算獲得に向けた働きかけを行っていく。

事業スキーム図



ブラジル国における次世代がん検診センター設立プロジェクトコンソーシアム 「ブラジル国における次世代がん検診センター設立プロジェクト」

事業概要

- ◆ 同国は人口及び医療費の両面で中南米最大市場。近年、国民の所得が一定水準を超えたことで、健康への意識が高まりつつあるが、生活習慣変化に伴うがん等による死亡率増加が大きな社会問題となっており、がんの早期発見・治療システムの導入や、診断機材のデジタル化による診察効率の向上が喫緊の課題となっている。
 - ◆ 本事業では、同国でのがん検診普及に向け、最新の日本製機材によるがん検診センターを設立し、検診の有用性の実証を通してShowroomとして日本製がん検診機材の拡販、需要創出を図る。
 - ◆ 具体的には、「次世代がん検診センター」をサンパウロ大学附属病院(HU-USP)に設立し、主に地域住民を対象にがん検診を実施することを目指す。また、HU-USPをレファランスセンターとし、行政や保険会社への働き掛けをすることで、がん検診に必要な機材と検査試薬キットの使用機会を増やし、日本製品の輸出拡大を図る。
- 尚、**今年度は、HU-USP内での次世代がん検診センター設立に向けた準備室の開設を目標とする。**

事業体制

FUJIFILM

& FUJIFILM do Brasil Ltda.



栄研化学株式会社
EIKEN CHEMICAL CO., LTD.



国立研究開発法人
国立がん研究センター

	富士フイルム			栄研化学	国立がん研究センター	
	機器	次世代要素		次世代機材	技術・ノウハウ	
大腸がん	内視鏡	レーザー光源搭載の内視鏡システム PACS連携 デジタル		便潜血検査キット	内視鏡医 (胃・大腸)	次世代がん検診 ノウハウ 胃・大腸2015～
胃がん	内視鏡			ABC検診キット (実証調査)		
肺がん	X線画像診断			—		
乳がん	マンモグラフィ			—		

Tmedc

株式会社東京医療コンサルティング
全体調整

これまでの成果

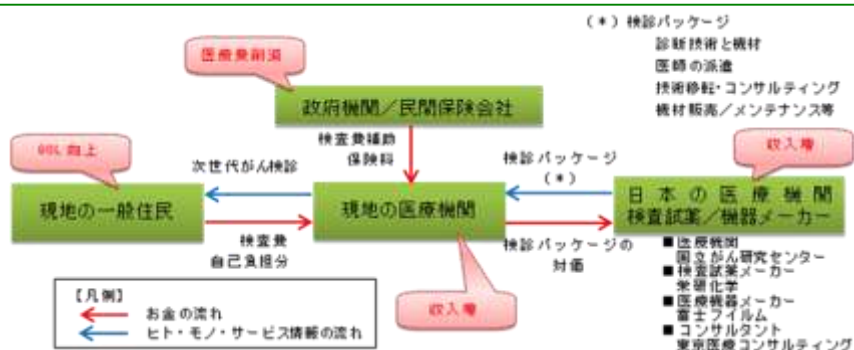
今年度目標の「HU-USP内にがん検診センター設立準備室を開設」を完了。以下が具体的な活動。

- ◆ 全6回の現地出張時及び1月の日本招聘時に検診センターの事例を紹介し、関係者のセンター設立の知見を向上。
- ◆ 最新の内視鏡機器による胃がん、大腸がん検診の内視鏡トレーニングを実施(NCCHから内視鏡医を派遣)。
- ◆ X線画像診断は、一部デジタル機材をデモ機としてHU-USP内に設置し、運用トレーニングを開始。
- ◆ 日本式大腸がん検診(免疫化学的便潜血検査+内視鏡による精密検査)をHU-USPにおいて継続実施。
- ◆ 胃がんリスク検診(ABC検診)の実証調査に着手。
- ◆ HU-USPの研究プロジェクトとして検診センター設立を病院長が承認。(母体サンパウロ大学では3月承認見込み)
- ◆ Medical DirectorのDr. M. Borbaがプロジェクトリーダーとなり、実務責任者をElizabete看護師長が担う体制を構築。
- ◆ 検診センターは既存の病院施設を活用し、待合室、問診室等は専用の部屋を設営した。

今後の課題

- ◆ HU-USPの自主研究としてがん検診センターの有用性を実証する。
- ◆ サンパウロ大学の教職員を対象に検診を開始し、将来的には病院周辺(Butanta地区)の住民まで対象を拡大。
- ◆ HU-USPをレファランスセンターとして行政や保険会社への働き掛けを行い、がん検診機材の需要拡大を図る。

事業スキーム図



日本型コンタクトレンズ診断コンソーシアム

「(ベトナムにおける)日本型コンタクトレンズ診断・普及プロジェクト」

事業概要

目的: 日本型コンタクトレンズ診断・処方手法の導入と販売システムの実証による、継続可能なビジネスモデルの構築。

背景: ・ベトナムにおけるコンタクトレンズ市場は経済成長とともに、急速にコモディティ化が進んでいる。
・医師は知識不足から、コンタクトレンズを眼障害の誘因可能性ある矯正方法として懸念。
・患者(消費者)は商品の性能や安全性よりも安価な商品を求めている。

これらの課題を解決するために、品質・安全性、処方技術、眼病予防及び、医療分野への応用に関して様々な経験を有している日本型コンタクトレンズの診断・処方システムそのものをベトナム国内で構築する。

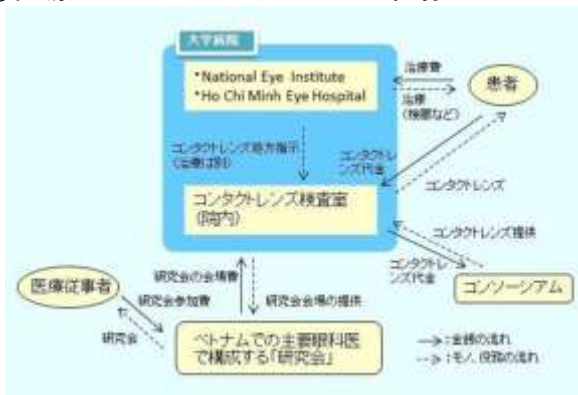
実施内容

- ◆日本製コンタクトレンズ及び日本型診療・診断システムの競争優位性検討
→現地の医師、オプトメトリスト、販売店、スタッフにコンタクトレンズを取り巻く環境・課題・要望についてヒアリング。洗い出した情報をもとにその優位性を検討。
- ◆日本型コンタクトレンズ医療の普及啓発活動
→医療従事者・販売店への研修や一般消費者向けのイベント出展、動画コンテンツの配信による啓発活動による、日本製コンタクトレンズの品質の周知と、日本型医療システムの理解を促進
 - ・現地国立病院への研修会6回実施(医療従事者向け:8月、11月、1月)
 - ・健康長寿広報展への出展(一般消費者向け:9月)
 - ・コンタクトレンズの取扱いビデオ配信(一般消費者向け:2月末現在 YouTubeアクセス数18万回超)
 - ・The 2nd ASEAN Ophthalmology in Myopia Control協賛(10月)

事業モデルの構築

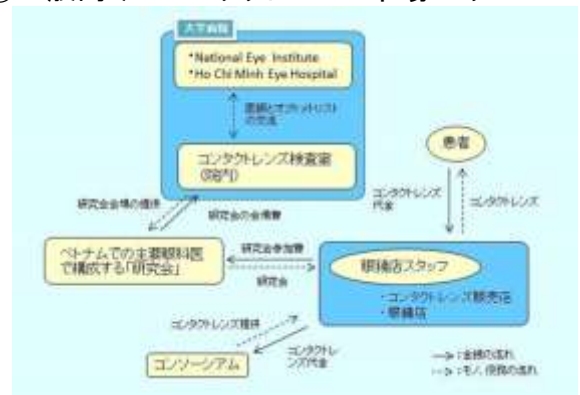
- ◆競争優位性・・・日本製の品質・安全性・処方技術水準の高さと市販後のフォローアップ体制
- ◆市場環境・・・「医療としてのコンタクトレンズ」「一般向けのコンタクトレンズ」に分けて事業モデルを構築

①医療としてのコンタクトレンズ市場スキーム



- ・キーパーソン: 医師・オプトメトリスト
- ・対象患者: 特殊疾患罹患患者 (円錐角膜、オルソケラトロジー、レーシック術後)
- ・アプローチ先: 病院(大学)
- ・競合製品: メガネ
- ・医師の裁量大きく、処方量を原資にすることが可能、ただし収益性は低い
- ・医師による特殊疾患罹患患者を対象に特殊コンタクトレンズの販売で収益を得る

②一般向けのコンタクトレンズ市場スキーム



- ・キーパーソン: 眼鏡店スタッフ
- ・対象患者: 近視、遠視、乱視、老視
- ・アプローチ先: 有力眼鏡・コンタクトレンズ販売店
- ・競合製品: メガネ、レーシック
- ・競争優位性: 製品価格が占める割合が大きい、収益性、継続性は見込むことができる
- ・メーカー主催のシンポジウムから開始し、有料のシンポジウム、研究会へと段階を踏み、最終的には学会・団体として会費などで収益を得る

今後の課題

- ◆一般向けの販売手法の導入
- ◆ベトナム医師によるコンタクトレンズ検査室の運営・研修立案
→運営団体としての研究会、学会の設立

■ 事業概要

インドでは急激な経済発展と共に生活習慣病罹患者が増えており、予防医療の重要性が増している。同地において日本式簡易検査サービス及び日本式簡易検査機器のプロモーション拠点を設立し、生活習慣病予防に貢献するとともに、日本の医療技術輸出につなげるため実証調査を実施した。

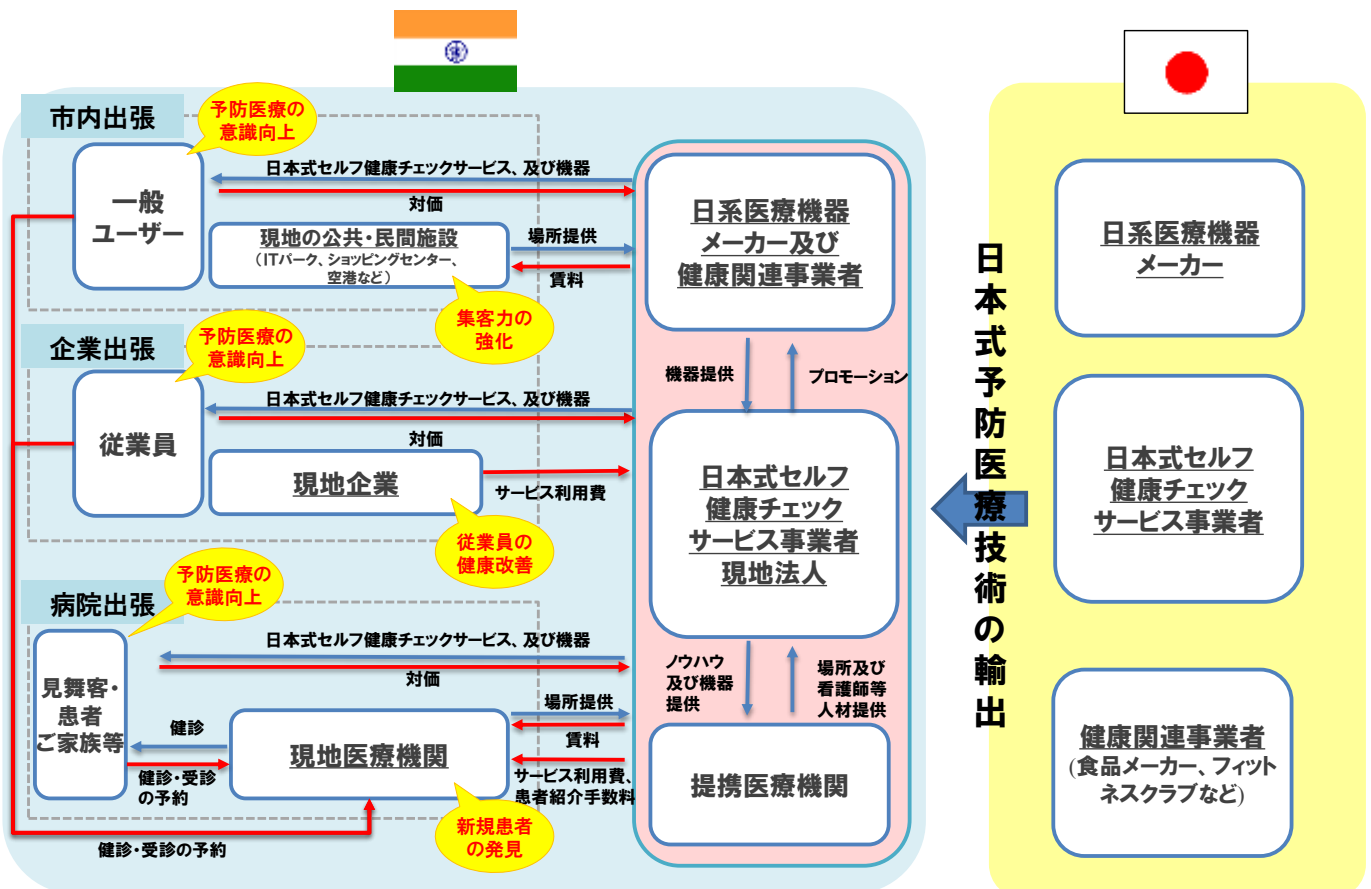
■ これまでの成果

バンガロールにケアプロ株式会社の子会社を設立し、日本式セルフ健康チェックサービスの拠点を築いた。また、現地大手製造業他3ヶ所で日本式セルフ健康チェックサービスのトライアルを実施した他、同サービスを通じた日本式医療機器のプロモーションについて調査を行うことで、日本式医療機器に対する印象やどのようなカテゴリーの機器が関心を集めているか確認することができた。また、将来的な事業展開を見据え、現地医療機関との連携を進めており、インド人看護師へ同サービスのトレーニングを実施することができた。

■ 今後の課題

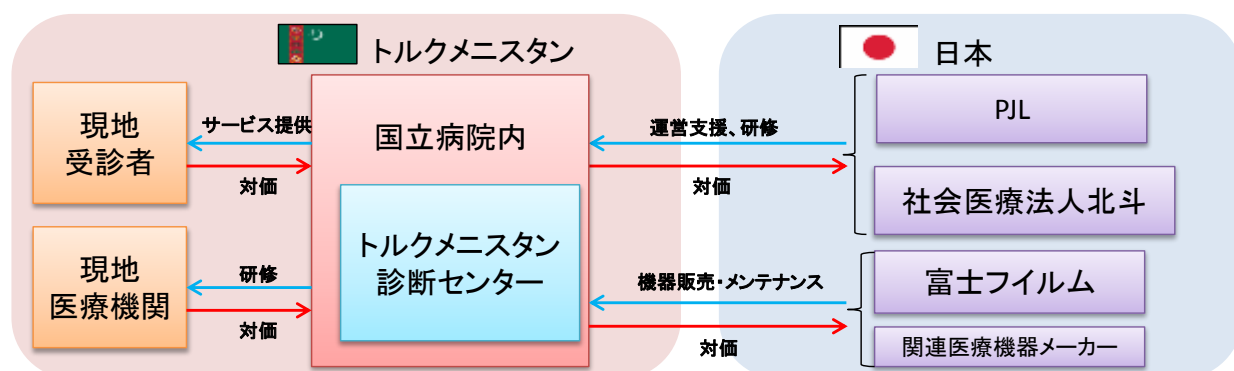
同地で効率的な事業展開を進める上では、営業面及びサービス提供面で現地医療機関との連携が不可欠。迅速かつ効率的な顧客獲得が事業運営上必要。また、日本式医療機器のみならず、日本式セルフ健康チェックサービスを通じた和食や健康関連商品のプロモーションへつなげるために、より詳細な調査が必要。

事業スキーム



事業概要 トルクメニスタンー日本 トレーニングセンター兼診断センター

- ◆「トルクメニスタンー日本 トレーニングセンター兼診断センター（仮称）」（以下、診断センター）を首都アシガバッドにつくる。日本側は医療機械を提供するとともに、診断センターで提供するサービスに関するコンサル並びに人材のトレーニングを行う。トルクメニスタン側は診断センターを実現するための場所、資金、人材を提供し、運営する。
- ◆（背景）トルクメニスタンでは、予防医療の重要性が認識されている中標準的な健診は行われているが、日本のように一か所でまとめてデータを取って診断する「人間ドック」は行われていない。首都アシガバッド市内では新しい医療施設の整備も進められているが、患者にとってはいくつかの医療施設を回らないと複数の検査を受けることができない点に変わりなく、画像診断も標準的に行われていないため、患者にとっての利便性や診断の精度を高める点でも日本による医療サービスが貢献できる。また、トルクメニスタン側からは医師を中心とした医療従事者のトレーニングも求められている。



これまでの成果

- トルクメニスタンの基本的な医療事情、特に首都アシガバッドにおける医療施設概要、国民保険制度の概要の確認。
- 医療機械ライセンス取得等の各種手続きに関して。
- 診断センターを実現すべき場所（候補地）の確認。候補地を実際に踏査した上での基本コンセプトの検討及びコンセプト図面の作成。
- トルクメニスタン側窓口である保健省、及び外務省との信頼関係の構築。
- アシガバッドの医療従事者に対するプレゼンテーションの実施。テーマ：「海外における日本の医療事業展開」及び「画像処理技術と臨床」。

今後の課題

- ◆トルクメニスタン側との基本コンセプトの合意。
- ◆トルクメニスタンによる資金調達の可能性とスケジュール：トルクメニスタンの経済情勢の変化により、診断センターに必要な資金調達の目途を今年度中にたてることができなかった。
- ◆実務担当者（ワーキンググループ）の設置。
- ◆各種手続きの確認。

今後の展開

トルクメニスタン側による資金調達とワーキンググループの設置を促すとともに、診断センターをいつ頃実現できるかスケジュールを検討する。診断センター実現までの間は人材育成・人材交流に取り組む。

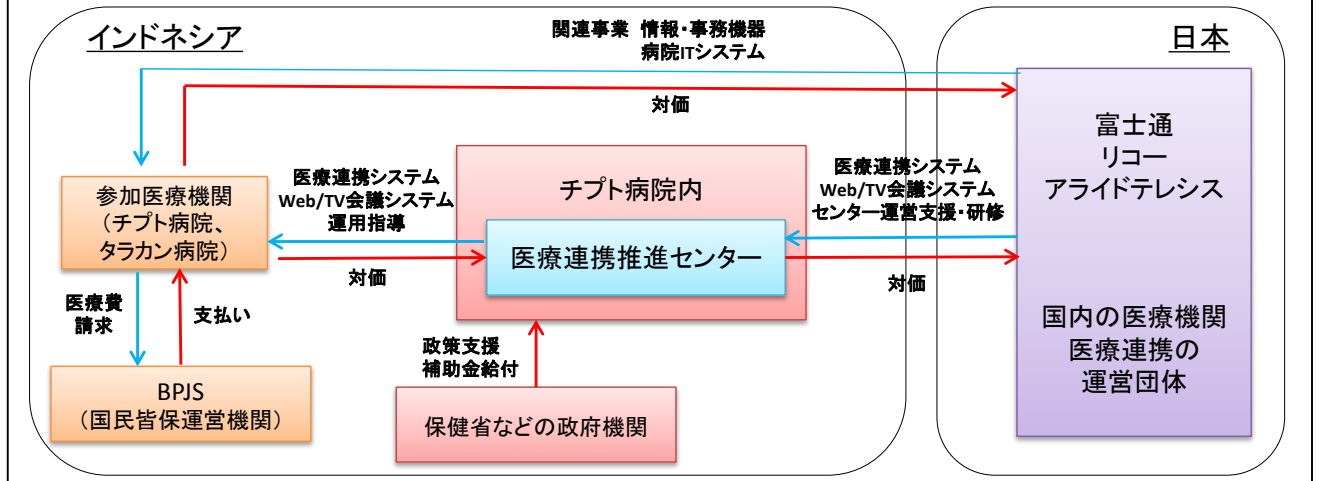
インドネシア医療連携推進センター設立コンソーシアム

「インドネシアにおけるICTを利用した日本式医療連携推進センター設立プロジェクト」

事業概要

- ◆ インドネシアでは、国民皆保険制度の見直しとともに、それぞれの医療機関の役割を明確にし、複数の医療機関で患者をケアする医療連携制度が開始された。顕在している課題として、①大規模病院への患者集中により適切な医療サービスが提供できていない、②政府の医療費負担が想定以上に増加している、が挙げられる。
- ◆ 本事業では、ICTを活用した医療連携推進センターを、ティーチングホスピタルであるチプト病院に設立する。複数医療機関との情報共有を実現し、医療連携の品質と効率の改善に貢献する。今年度は、センターの人材育成（運用指導）、ICTインフラ構築、実証評価を実施する。

事業イメージ



これまでの成果

- ◆ センター設立に向けて下記の取り組みを実施
 - ・運営人材の育成、運用実施の指導
 - ・センター運用方式の討議と決定
 - ・ICTシステムの構築
- ◆ 保健省、病院関係者とシステム/運用を実証
 - ・評価会を実施
 - ・ヒアリングやアンケートを通じた課題の把握

運営人材の育成、評価会の様子



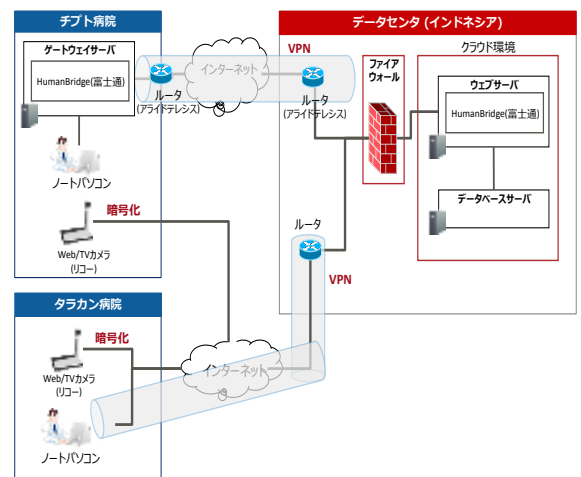
チプト病院でのディスカッション



Web/TV会議システムの意見交換

ICTシステム構成図

インドネシアのクラウド環境に、インターネットで利用する医療連携システムを構築。Web/TV会議システムと融合し、遠隔診断支援の環境を構築。



今後の課題

- ◆ ICTを利用した医療連携を運用できる人材と、医療連携を医療サービスや病院経営の改善に導ける人材の育成を進めること。
- ◆ ICTシステムを更に活用、普及させる為に施策を検討すること。（安定したインターネット回線の確保、マルチデバイスへの対応、医療保険データとの連携など）
- ◆ 医療連携に関するガイドライン整備の促進と、各医療機関における診療情報の電子化を進め、医療連携推進センターに参加する医療機関を増やしていくこと。

事業概要

日本内視鏡外科学会と、対象国・地域の関連学会との連携を促進し

- ◆ メコン・ロシアに於いて日本の内視鏡外科手術と、日本製医療機器の普及促進を図るための内視鏡外科手術トレーニングを支援して行く仕組みの構築検討を進める
- ◆ メコンでは、バンコクに開設するT-TECを日本の医療技術・製品を普及する地域拠点化の検討をする
- ◆ ロシアでは、現地トレーニング拠点構築の検討を行う

これまでの成果

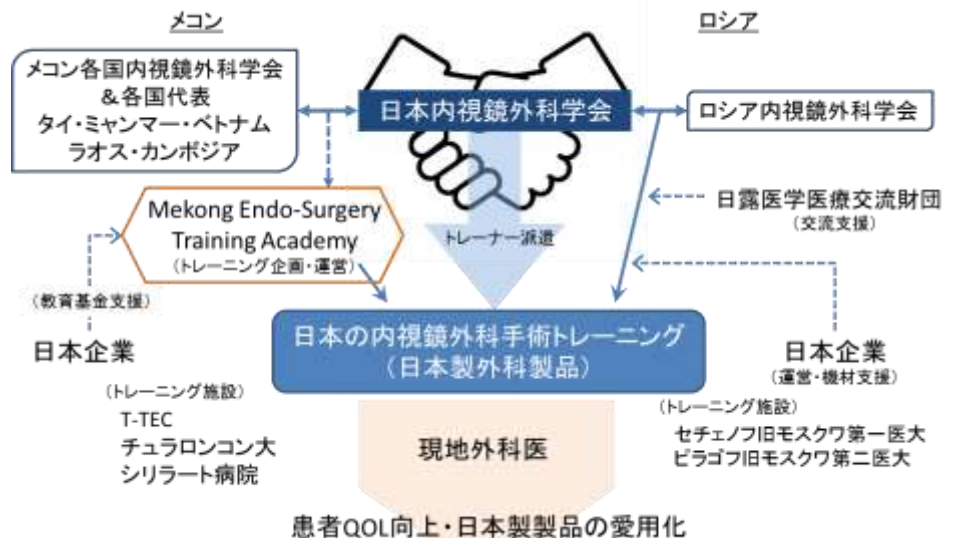
- 関係構築・普及啓蒙：日本の内視鏡外科（技術認定制度・ガイドライン・トレーニング）の紹介
 - 日本内視鏡外科学会総会、日泰露ジョイントプログラム、実習ラボトレーニング、手術見学（泰医師6名、露医師8名招聘）
 - Japan-Mekong Joint Seminar：日本人エキスパート4名 & メコンエキスパート約70名参加
 - ロシア内視鏡外科学会年次総会：日本人エキスパート2名派遣
- トレーニング展開への仕組み：学会間連携によるトレーニング開催への啓発
 - メコン：医師グループによるトレーニング組織の設立が方向付けられた
 - MESTA (Mekong Endo-Surgery Training Academy) - メコン内トレーニングの企画・運営母体
 - 1コース 24名 x 年6回開催予定（年144名のトレーニング実施）
 - ロシア：日露によるトレーニングコース開催を基本合意：露学会開催コースへの日本学会による支援
 - 1コース 9～12名 x 年2回開催（年18～24名のトレーニング実施）
- トレーニング拠点（施設レンタル・日本企業による機材貸与）
 - メコン：在バンコクT-TEC (Thai-Training & Education Centre)を中心とし、チュラロンコン大/マヒドン大 シリラート病院のトレーニング施設を利用
 - ロシア：セチェノフ名称ロシア第一モスクワ国立医科大、ピラゴフ名称ロシア国立医学研究大
- 日本の技術・製品紹介
 - イベント毎に実施。今後、トレーニングを中心として試用機会の創出を図る

今後の課題

- トレーニング支援を実施する日本企業コンソーシアム設立推進
- 早期発見早期治療を可能とする日本の知見、経験の共有化と、相手国・地域の社会、医療従事者、医療行政機関への啓蒙・啓発促進
- 患者メリットの大きい低侵襲治療を多くの人が受けられるよう相手国・地域への環境整備への継続支援

今後の展開

- 継続的なトレーニング実施による日本の内視鏡外科手術の普及促進
- 日本製製品への認知向上と品質・性能への信頼感の醸成



ベトナムにおける人間ドックセンター開設コンソーシアム 「ベトナムにおける人間ドックセンター開設に係る実証調査事業」

【事業概要及び成果】

ベトナムにおける、日越共同運営による「日本型人間ドックセンター」(HECI: Health Evaluation and Promotion Center, Cho Ray Hospital and International University of Health and Welfare)の開設に向けて以下の作業を実施し、以下の成果を得られた。

事業概要	成果
法制度の調査 各種申請	事業協力契約(BCC)の形式が望ましいとの結論に至った。 現地法律事務所等にBCCの形式が可能である旨確認した。 2015年11月:認可申請、2016年2月:保健省から事業認可
運営スキームの検討 運営に関する法制度の検討 設立認可手続き	
チョーライ病院等との日本型人間ドックセンター設立にかかる協議の実施	2015年8月以降、ほぼ毎月、チョーライとの協議を実施し、フロアデザイン、医療機器等に関して調整を図った。 保健省関係者との協議を3回に渡って行い、事業認可を得た。
合併会社設立に係る各種手続きの確認と書類作成	合併会社設立に向けた株主間契約書の草案を作成した。
人材育成	2015年12月以降、チョーライ病院から4名の研修員(放射線医師1名、臨床検査技師1名、看護師2名)を受け入れて、約40日間に渡る研修を国際医療福祉大学附属病院等で行った。
日本型人間ドックセンター運営マニュアルの作成	国際医療福祉大学附属病院・関連施設等の人間ドックマニュアルを参考に、ベトナムでの使用を想定したマニュアル作成を行った。
一般市民等への啓発活動	2015年9月にホーチミン市内で開催された展示会(JETRO主催)に出展するとともに、2016年1月には、予防医学をテーマとしたワークショップを現地にて開催した。
日本型人間ドックセンターの顧客獲得に関する検討の実施	現地日本企業や外資系企業を対象としたヒアリングを実施し、顧客獲得に向けた検討を行った。

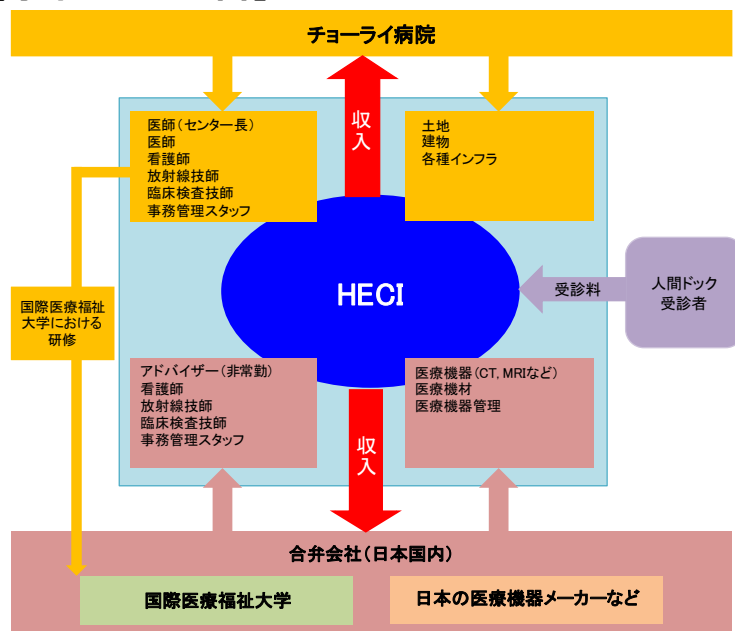
【今後の課題】

- (1)安定したHECI運営上必要となる受診者の確保・効果的なPR手法の検討
- (2)BCC方式で可能となる医療機器の貿易手続き・方法の検討
- (3)ベトナムにおける疾病状況を踏まえた適正な健診メニューの設定
- (4)想定される受診者層に応じた適正健診価格の設定
- (5)税務処理・収入分配・日本への送金等の経理課題の整理・解決
- (6)運営規模に応じた適正な人員構成の検討、人員の確保
- (7)HECIの運営上キーパーソンとなる人材の育成

【今後のスケジュール】

2016年 3月～	・医療機器・機材のベトナムでの調達に係る調整 ・日本からベトナムへの輸出手続き等に係る調整 ・HECIの業務開始のための各種契約手続き
6月～	・医療機器の設置・稼働・消防関連など様々な法制度に基づいた許認可や認証手続き等に係る調整
7月～	・人材育成:チョーライ病院からの研修員受入 ・広報啓発活動開始
8月～	・人材育成:現地での技術指導(専門研修ほか) ・広報啓発イベントの開催
10月～	・HECI開設

【事業スキーム図】



ミャンマー日本式医療施設整備運営プロジェクト

事業概要

- ◆ ミャンマーでは経済成長に伴い医療サービスに対する需要が高まっているが、医師・看護師、医療設備が不足しており、十分な医療サービスの供給が行われていない。
- ◆ Parami病院内にがん検診センターと循環器センターを開設・協同運営し、日本式医療サービスを提供すると共に現地医療人材の育成を行う。
- ◆ また、技師養成学校を開設し、現地医療機器管理技術者及び保守サービス技術者の育成も行う。
- ◆ 今年度は、がん検診センター設立、技師養成学校開設、循環器センターの設立準備、人材育成を行う。

これまでの成果

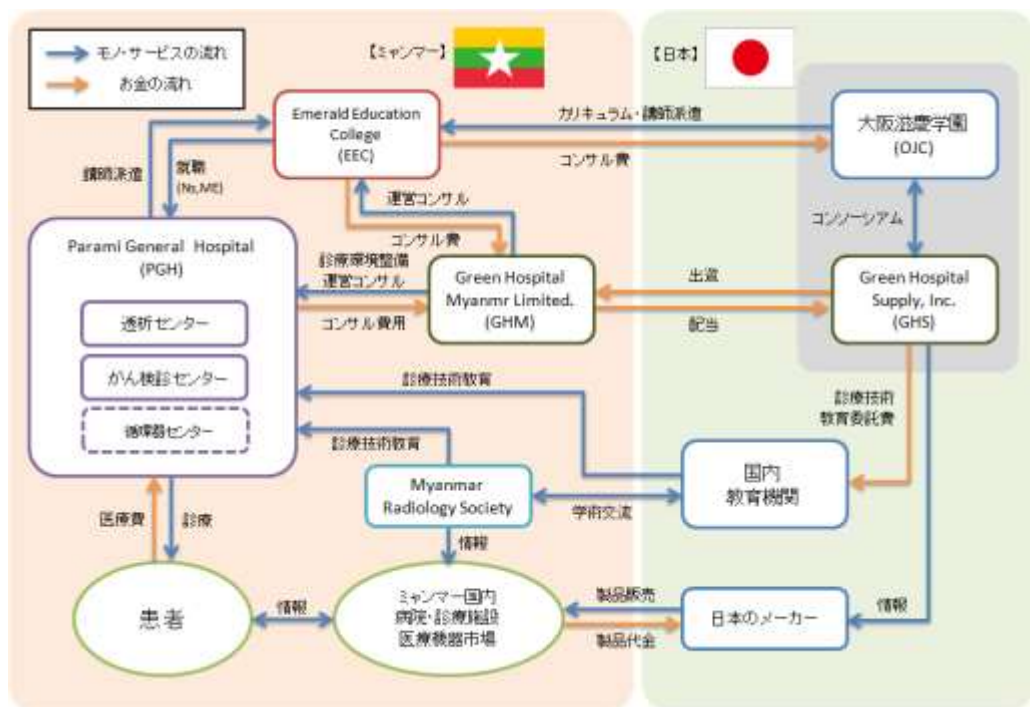
- ◆ がん検診センターの開設に向け、CTセンターを整備・協同運営を開始した。OJTで技術者のスキル向上を図ると共に、運営面にも日本の管理手法を取り入れ業務改善を図った。
- ◆ 第1回ミャンマー画像診断セミナーを開催。
- ◆ 技師養成学校のMedical Engineer (ME) 育成カリキュラムを整理。2016年6月開校を目指して準備中。
- ◆ 循環器センター整備に向けた市場調査を実施したが、現地で収集できたデータのみでは事業試算・検討に至らなかった。Parami病院内に循環器外来（予約外来）を整備し、データ収集を継続中。



今後の課題

- ◆ CTセンター単体での黒字化への取り組み。
- ◆ がん検診センター整備に向けた次期計画の検討と、患者へのがん検診受診に関する啓発活動。
- ◆ 学生募集と、就職先の確保および、卒後教育システムの確立に向けた検討。
- ◆ 循環器センターの稼働に必要な医薬品・医療材料の安定供給に対する検討と取り組み。

事業スキーム



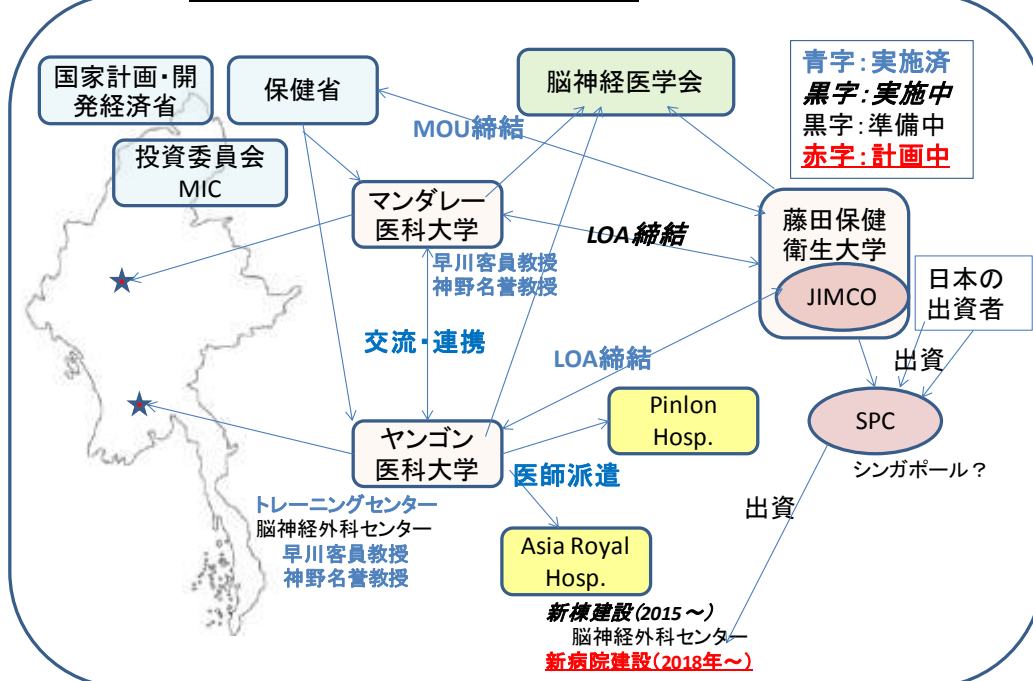
事業概要

- ◆ 本事業は、脳神経外科センターの整備と高度医療技術の普及のためのトレーニングセンターの設置を通じて、ミャンマーの医療水準の向上を図るとともに、日本式医療技術・サービスを一体として普及させることを目的とする。
- ◆ 日本式医療技術がミャンマー社会インフラの一つとして真に効果的に機能するよう、ミャンマーでの医療の実態を踏まえた政府、医科大学、私立病院、医学会を巻き込んだ医療ネットワークを形成する。
- ◆ 最終目標は医療ネットワーク形成の成果を踏まえた日本式医療技術を実践する総合病院の設置である。

これまでの成果

- ◆ ヤンゴン第一医科大学とJIMCOとのLOA締結(2013年12月)
- ◆ ミャンマー保健省とJIMCOとのMOU締結(2014年7月)
- ◆ ヤンゴン第一医科大学と藤田保健衛生大学とのLOA締結(2015年8月)
- ◆ ヤンゴン第一医科大学内に脳血管内治療の研修を目的としたトレーニングセンターを設置、稼働開始(2015年9月)
- ◆ 設置したトレーニングセンターにおいて脳血管内治療ハンズオンセミナー実施(2015年9月、12月)
- ◆ ミャンマー脳神経血管内治療学会設立(2015年12月)
- ◆ マンダレー医科大学にて第2回日本ミャンマー国際医療コンファレンス開催(2015年12月)
- ◆ ヤンゴン第一医科大学とのLOAに基づいた藤田保健衛生大学への留学生受け入れ(2015年3月～3か月)
- ◆ 脳血管内治療ハンズオンセミナーを大阪にて実施(2015年12月)
- ◆ ミャンマー国家計画経済開発省訪問(2015年9月)
(ヤンゴン第一医科大学内に脳神経外科センターの設置提案)
- ◆ マンダレー医科大学内に脳血管治療トレーニングセンター設置に向けた打ち合わせ(2015年12月)
- ◆ アジアロイヤル病院内に脳血管外科センター設置の為の新棟建設開始
及びコンサルMOU締結交渉開始(2016年11月)
- ◆ 昨年に続いて、脳血管内治療の有効性を実感してもらうための無償実証手術(5例)実施(2015年9月)

ミャンマーにおける医療ネットワーク形成



今後の課題

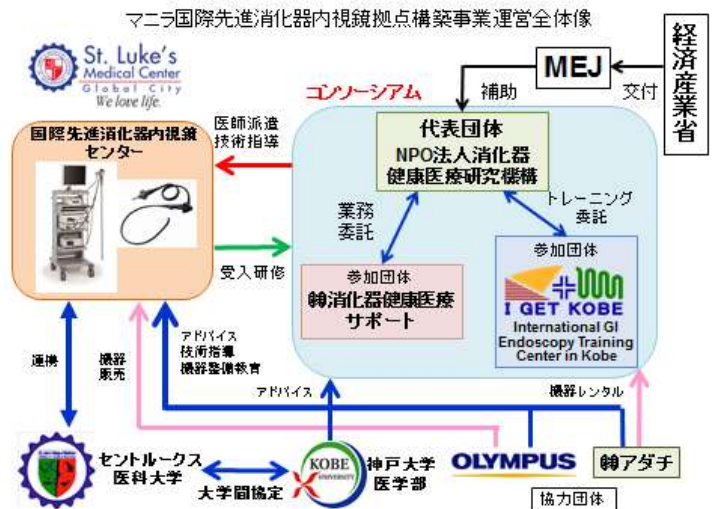
- ◆ 医療ネットワークの強化(セミナー、コンファレンス、実証手術の継続実施)
- ◆ ヤンゴン第一医科大学、マンダレー医科大学との連携強化
(留学生交流、マンダレー医科大学にトレーニングセンター設置)
- ◆ アジアロイヤル病院との新病院建設推進
(新棟に脳神経外科センター建設、新病院計画推進、MOU/コンサル契約)

マニラ国際先進消化器内視鏡拠点構築コンソーシアム 「マニラにおける国際先進消化器内視鏡センター設立事業」

事業概要

消化器がんに対する早期診断・早期治療のシステム構築が求められているフィリピンにおいて、世界をリードしている日本の消化器内視鏡機器を用いた内視鏡診断・治療の医療技術・サービスを導入・普及させるために、マニラのセントルークスメディカルセンターグローバルシティに国際先進消化器内視鏡センターを設立し、フィリピン及びASEANにおける日本式消化器内視鏡診療拠点を形成する。

1. 国際先進消化器内視鏡センター設立
2. センターの日比双方での周知活動
3. 日本式消化器内視鏡教育
4. ジョイントベンチャー設立準備



これまでの成果

1. セントルークスメディカルセンターグローバルシティに2部屋(各約25平米、計約50平米)からなるセンターを設立し、日本が誇る消化器内視鏡機器、オリンパス内視鏡EVIS LUCERA ELITE290を2セット、富士フィルム内視鏡LASEREOを1セットを導入した。



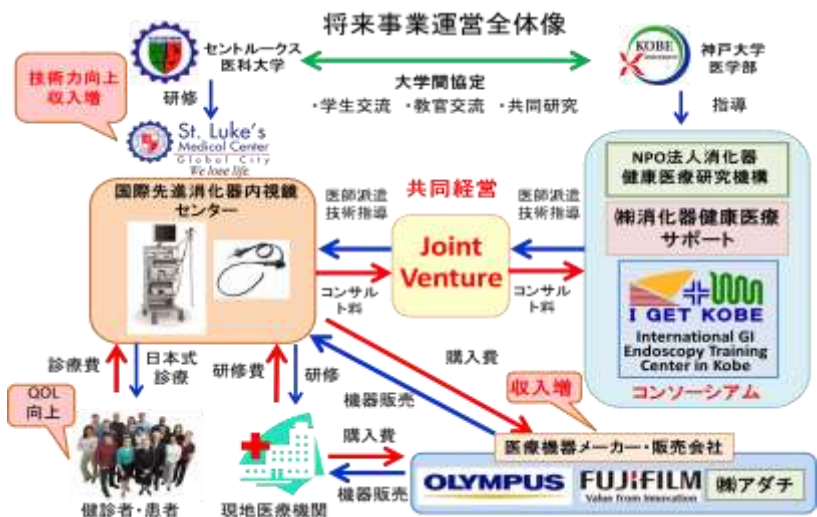
2. 2015年9月18日に神戸で設立記念セミナーを開催し、10月12日にマニラでオープニングセレモニー、内覧会、及びライブセミナーを開催した。
3. 2015年11月5～6日に、消化器内視鏡専門医を現地に派遣し、センター内でセミナーを開催。2016年1月25日～2月5日にセントルークスメディカルセンターの内視鏡看護師3名を神戸大学医学部附属病院光学医療診療部に招聘し、日本式消化器内視鏡診療運営研修を実施。さらに、2016年1月3日から消化器内視鏡専門医を常駐派遣した。
4. PEZA長官とPEZA特別顧問との意見交換で、世界をリードする消化器内視鏡診療を拠点とした医療サービス事業についてフィリピン国内の需要は多く、ジョイントベンチャーとしての事業展開価値は極めて高いとの意見が示された。また、長官からは当事業をサポートしていくと言質も得ることが出来た。現在、日本とフィリピンのハーフの日本人で、フィリピンの看護師免許を有し、現地のタガログ語と英語、日本語を話せる人材を2016年1月に1名雇用した。また、二国間経済連携協定(EPA)で来日し、3年間日本での研修経験のあるフィリピン看護師1名を採用予定である。

今後の課題

今回、同センターは内視鏡室2部屋、計約55平米の規模、機器も上部及び下部消化器内視鏡システム2セットに留まったが、今後は、胆膵内視鏡含め消化器内視鏡全般を網羅出来るセンターへと拡充が必要になる。日本式消化器内視鏡教育における課題として、今後、より多くの若いレジデントに日本式消化器内視鏡検査・治療技術を指導するために、セントルークス医科大学及びその教育病院であるセントルークスメディカルセンターケソンシティとの連携が重要である。さらに、ジョイントベンチャー設立準備の課題として、現地に医師と事務職員を常駐することは可能になり、今後、ジョイントベンチャーの具体的な事業計画をまとめパートナーを決定していくことが挙げられる。

事業スキーム

現地パートナーとのジョイントベンチャーによる、日本式消化器内視鏡診断・治療及びサービスの拠点形成。



公益財団法人 佐賀国際重粒子線がん治療財団

「九州国際重粒子線がん治療センター」台湾・海外からの患者受入プロジェクト」

事業概要

- ◆ 台湾では、国を挙げてがん罹患抑制などのがん対策が進められているものの、未だ市民における認知度は低く、がん検診は十分に普及していない。また中国においては、近年の経済成長に見合った医療サービスの提供が十分でなく、中間層・富裕層を中心に、質の高いがん検診、がん治療へのニーズが高い。
- ◆ これらに対しては、日本のがん検診や治療後QOLの高い重粒子線治療を提示することで、早期発見・早期治療への訴求が高まることが期待される。
- ◆ 本事業では、台湾および中国の一般市民に対して、がんの早期発見のメリットや日本の先進的ながん検診、および重粒子線治療の周知を図るとともに、日本に患者を送り出す医師に対して治療方法等の理解促進を図るため、現地の市民および医療従事者向けのセミナー開催や、医療従事者を日本の重粒子線がん治療施設に招聘することで、患者の受入れを実施する。

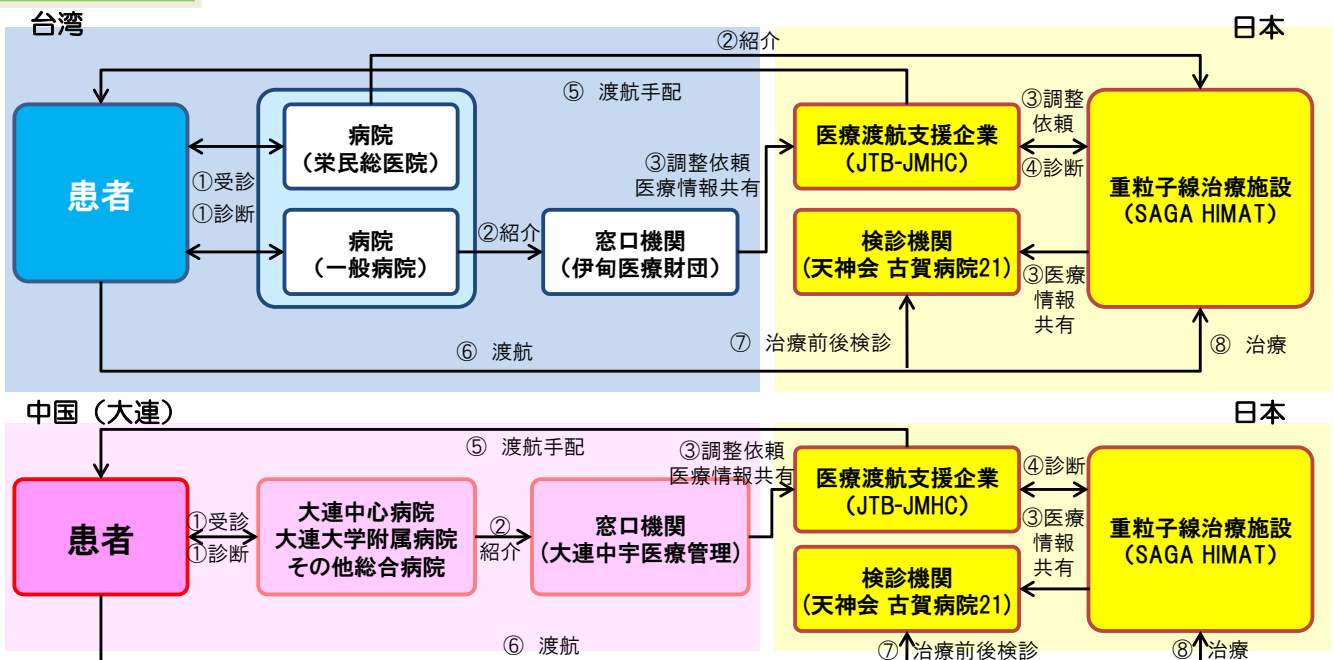
これまでの成果

- ◆ 一般市民向けのセミナー開催により、セミナー参加者に日本のがん検診および重粒子線治療の有効性が伝えられた。さらに、セミナー参加者がその家族・友人にもセミナーの内容を伝えることが期待される。
- ◆ セミナーを通じて、中国および台湾の医療渡航事業者の関心も呼ぶことができ、数社からはセミナー開催の打診があった。今後の患者受入の対象地域拡大の検討につなげることもできた。
- ◆ 医療従事者向けのセミナーおよび招聘事業を実施することで、重粒子線治療の対象となるがんの症例に対する理解が深まり、重粒子線治療を希望する患者の現地でのスクリーニングの精度が向上し、結果的に日本での診断にかかる時間が減少した。
- ◆ 現地医療機関からの問合せを取りまとめる「窓口機関」を、台湾（台北）と中国（大連）の信頼できる事業者（医療関係の民間事業者）に委託することができ、台北、大連を中心とした広範囲な地域に事業が拡大できる可能性ができた。

今後の課題

- ◆ 外国人が重粒子線治療を受ける場合、患者データの翻訳、治療時の通訳、渡航経費など、費用が高くなるため、一般市民が治療を受けるにはハードルが高いことから、ターゲットを絞った集患が必要。
- ◆ 市民向けに重粒子線治療の効果を周知する際には、適応可能な部位や進行度を正しく伝えることが必要。
- ◆ 検診・治療を受入れる医療機関に、外国語が理解できる医療従事者を配置するなど、受診者・患者の不安を軽減する取組みが必要。

スキーム図



特定医療法人 衆済会 増子記念病院

「肝・腎・糖尿病専門外来・セカンドオピニオン外来と長期フォロースキームの確立」

事業概要

- ◆ 中国は、急速な高齢化に伴い、糖尿病やそれに伴う腎障害などの合併症の急増が予想される。また、B型慢性肝炎の罹患率が非常に高く、最近ではC型肝炎の発症も増加している結果、肝がんの多発国であることが知られている。
- ◆ 本事業では、肝・腎・糖尿病の専門病院として高いレベルの診断と治療実績のある増子記念病院が、健診・検査や治療に加え、専門外来での人員配置（専門医、医療通訳）、広報、長期フォロースキームといったソフト面の整備も含めた、肝・腎・糖尿病専門・セカンドオピニオン外来（The Master of Second Opinion）の採算性を検証する。

これまでの成果

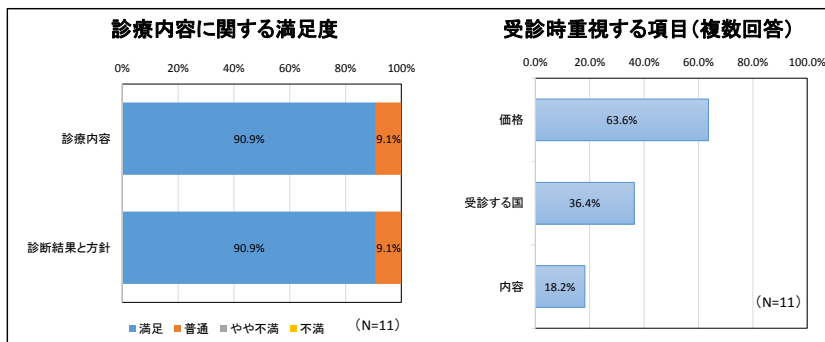
「国際医療旅遊展覧会（北京）JME」ブースに参加

- ◆ 中国人患者向け広報
 - 1) 微博（ウェイボー）でのThe Master of Second Opinionアカウント開設（2015.12.17～2016.02.29：訪問数606、フォロワー数20、いいね90）
 - 2) The Master of Second Opinion紹介サイトとして電子カタログを制作
 - 3) パンフレット制作・・・主にコーディネート事業者に配布
 - 4) kintone（キントーン）を使った受診者記録アプリ（Myページ）の作成・運用



本事業では、患者満足度を評価するためのアンケートを行った（下図）。
帰国後のフォローに対する評価は、
受診者がMyページから入力できる
ようにした。

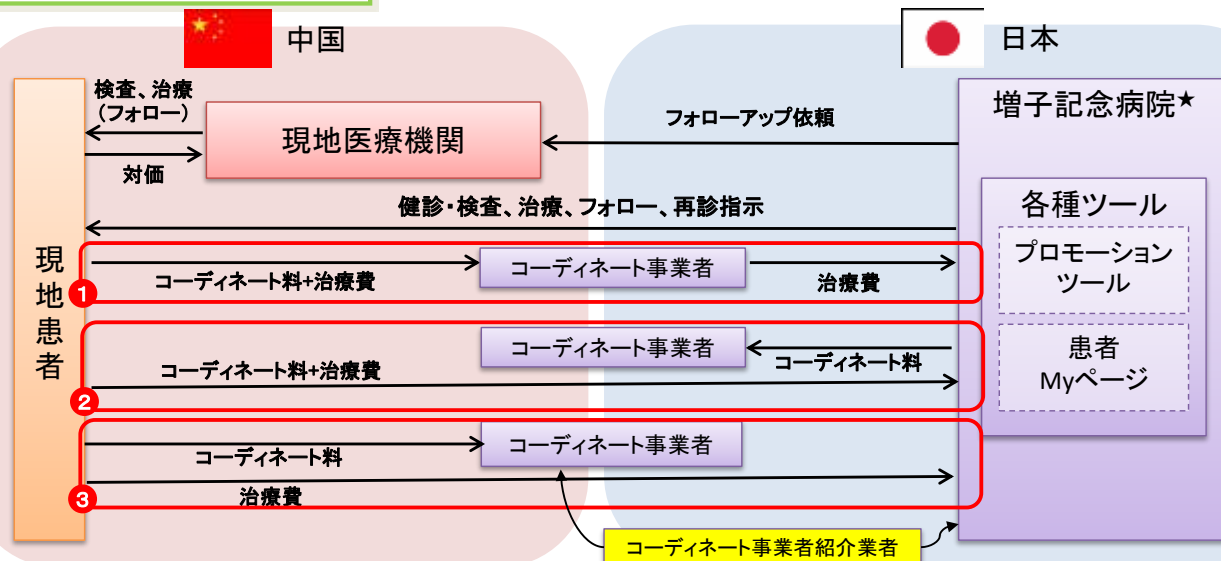
- ◆ 患者受け入れ態勢の整備
 - 1) 中国人医師の配置
 - 2) 中国語の各種書類の整備
 - 3) 専用ロッカー・検査着の準備
- ◆ コーディネート事業者との
提携・契約（4社）
- ◆ 受診患者（合計11名）
肝疾患9名、腎疾患1名、
糖尿病1名



今後の課題

- ◆ 広報ツールの活用
ウェブサイトの立ち上げが、2016.12.17とまだ2か月半ほどしか経過していないためか、いまのところ広報ツールでこの診療を知って受診した患者がなく、コーディネート事業者の紹介や口コミが主であった。アクセス数も多くなく、この点を改善することで患者増へつなげる方策が必要である。
- ◆ 現地医療機関との連携
現地医療機関と連携して、帰国後の患者フォローを行う予定であったが、現地医療機関との連携は現在できていない。今後、①来日する患者に紹介状の持参を促す、②中国の医療機関と連携している団体と提携する、③増子記念病院自身が連携できる中国の医療機関を発掘する等の努力が必要である。
- ◆ 内服治療の希望者への対応
最近、C型肝炎を中心に肝炎の内服治療薬の飛躍的な進歩があり、また、糖尿病治療薬も新薬の開発が続いている。これらの患者を受け入れた場合、内服薬の希望者が出てくる可能性が高く、新たな対応を考える必要が生じる。

事業実施イメージ（将来）



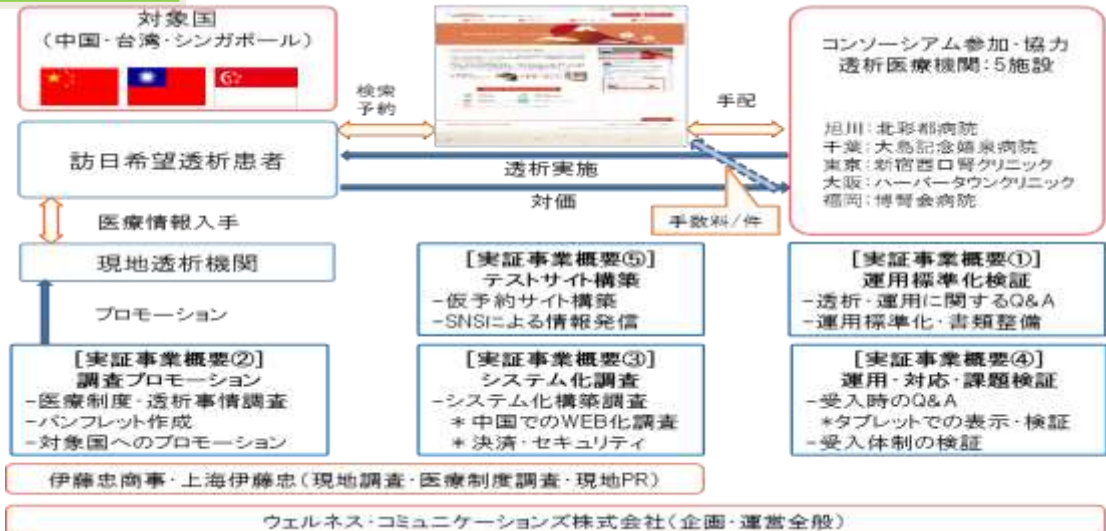
注) お金の流れは①～③の3パターン。実証事業中は全て③で実施したが、将来的にはどのパターンにも柔軟に対応していく。

ウェルネス・コミュニケーションズ株式会社 「訪日外客向け血液透析支援サービスプロジェクト」

事業概要

- ◆訪日を希望する血液透析患者は、訪日外客数そのものの急激な伸びもあり増加している。ただし、日本での透析治療にあたっては、医療機関情報・受入の流れ・治療実績情報の不足、現地での情報発信・PRの不足、スタッフの言葉の問題等が障害となり、訪日に至らないケースが多いと予想される。
- ◆本事業では、中国・台湾・シンガポールの透析患者を対象に、受入整備を行うとともに、対象国の医療機関への情報発信を行う。実際の受入時には、医療機関のスタッフが外国人患者とのコミュニケーション時のサポートとなる仕組みを提供し、事業化を進める。

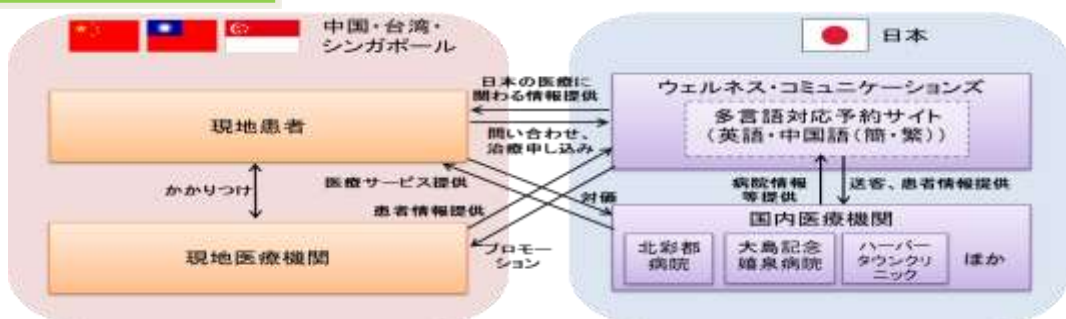
事業実施イメージ



これまでの成果と今後の課題

	成果	課題
① 受入整備	・日本での透析実施に関するQ&A作成 ・予約確定までの運用方法の標準化 ・料金設定の検証	・対象国でのさらなるPR活動と連携・協業 ・医療機関の参加拡充 ・ビジネスモデルの精査
② 対象国でのPR	・市場規模の把握 ・医療機関・患者の会へのPR実施 ・北京 旅行博への出展	・中国での潜在重要な掘り起こし ・旅行会社との連携検討
③ システム化調査	・中国でのWEBサービス検討 ・中国での類似サービス調査	・中国でのサービス提供にあたっての、決済・情報発信での工夫
④ 実際の受入対応	・実証期間中に41名の受入実績 ・来院から終了までの対応フロー整備	・台湾以外からの受入拡大 ・団体受入時の整備を検討
⑤ テストサイト構築	・仮予約サイト構築 ・受入時のサポートサイト構築 ・SNSによる情報発信の実施	・効果的な情報発信 ・タブレット以外の方法検討 ・中国に対する効果的な情報発信

今後想定されるビジネスモデル例



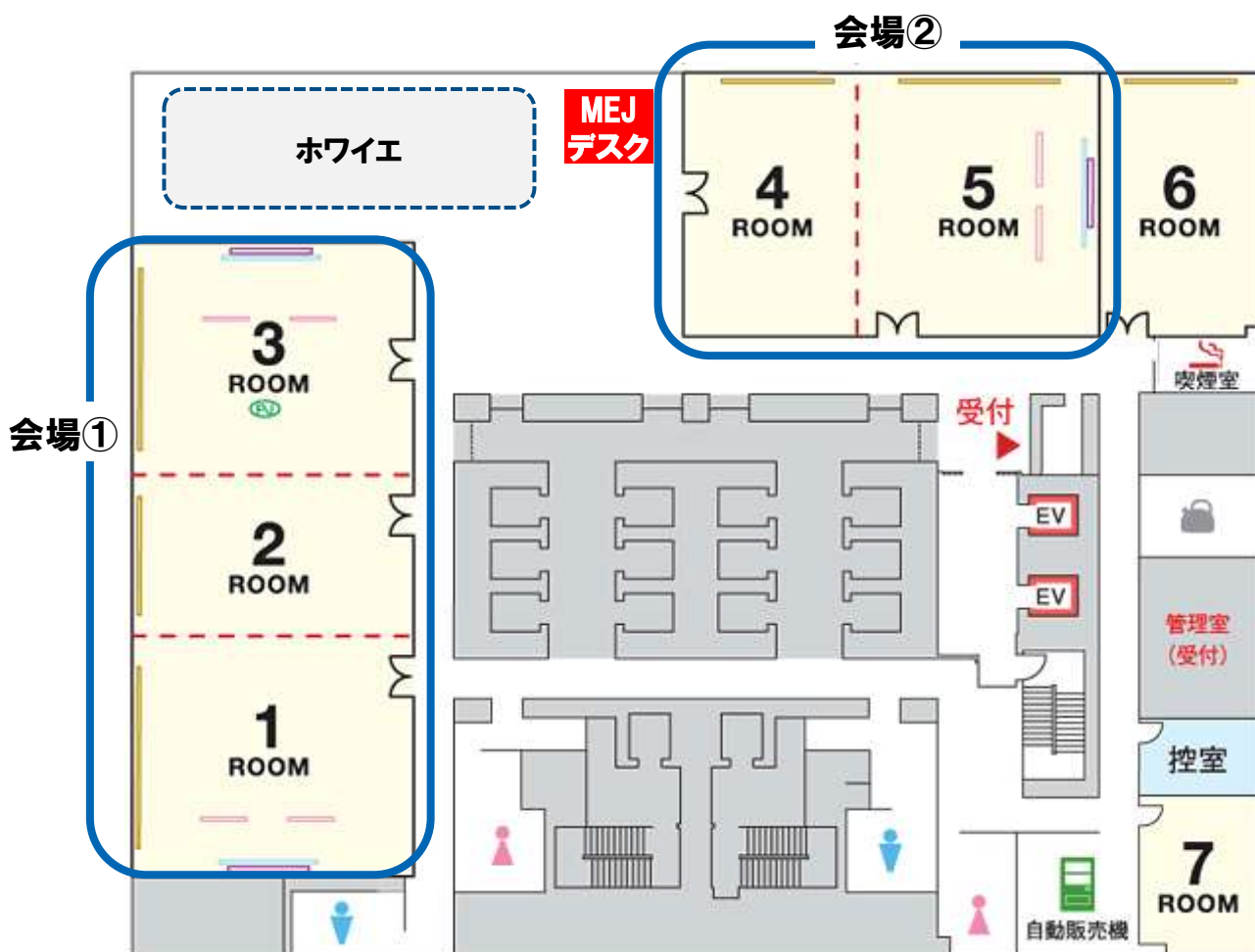
発表資料等の公開について

- 本配布資料は、MEJウェブサイト内「医療国際化事業 最終報告会のご案内」にて公開予定です。
 - 医療国際化事業 最終報告会のご案内（MEJ）
http://www.medical-excellence-japan.org/jp/seminar/h27_final_report.html
- 「平成27年度 医療技術・サービス拠点化促進事業」の事業報告書は、経済産業省ウェブサイト内「医療の国際化の調査・報告書一覧」にて公開予定です。
 - 医療の国際化の調査・報告書一覧（METI/経済産業省）
http://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcare/report_kokusaika.html
- インバウンド参考情報を経済産業省ウェブサイトにて公開しています。
 - 外国人患者の受入参考書（METI/経済産業省）
（医療機関向けに、外国人患者受入に必要な業務体制、リスク対策、価格設定等について説明）
http://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcare/inbound.html
- 本報告会にて投影したプレゼンテーション資料は後日公開いたしません。

MEMO

注意事項

- 名札はストラップの色で識別されています。
 - 青色： 一般参加者
 - 黄色： コンソーシアム関係者
 - 白色： 事務局関係者等
- 会場・運営に関するご質問は、腕章をしている事務局担当者までお願いいたします。
- プレゼンテーションは2会場に分かれて行います。
会場間の移動は自由ですが、プレゼンテーション中の移動はご遠慮ください。
- コンソーシアムは、プレゼンテーション後30分間、ホワイエにて待機しています。
ネットワーキングの場としてぜひお立ち寄りください。
- トイレ・自動販売機・喫煙室は、下図をご参照ください。



本日はご来場ありがとうございました。